

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 福井市地域生活交通活性化会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間・整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改善補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
京福バス株式会社・酒生いきいきバス東郷ルート	市街地の東部に位置する酒生地域において、高尾町の斜面住宅団地を起点に、既存集落を經由してJR越前東郷駅や済生会病院、スーパーマーケット等に至る路線(路線定期運行)	引き続き、地域の運行協議会が主体となっており、時刻表や広報誌の作成・配布等の周知活動を行った。	A	公共交通不便地域の解消だけでなく、地域住民のコミュニティ醸成や地域活性化のツールとしても活用が図られている。 ・年間利用者数:7,306人(目標値9,000人) ・乗継利用の割合:58.3%(目標値50%)	・高齢者を中心に定着が図られておりコミュニティ醸成にも寄与しているものの、利用者数の減少がみられることから、地域内での周知や利用の呼びかけを強化し、新規利用者の獲得および定着を図る。
京福バス株式会社・酒生いきいきバス北ルート	小型ノンステップバスによる運行で、車両減価償却費等国庫補助金の交付を受けている。	また、地域内の運転免許返納者へ1万円分のバスチケットを配布し、新規利用者の獲得を図った。	A	年間利用者数が未達成となった主な要因として、主な利用者である高齢者の固定客が、福祉施設入居等の理由により減少しているのではないかと考えらえる。	
京福バス株式会社・酒生いきいきバス南ルート					
京福バス株式会社・岡保地域コミュニティバス北周り	市街地の東部に位置する岡保地域において、既存集落を經由して済生会病院、ショッピングセンターやスーパーマーケット等に至る路線(路線定期運行)	バスの時間に合わせて公民館でのイベントを開催するなど、地域の取組により、定期利用者の確保を図った。	A	公共交通不便地域の解消だけでなく、地域住民のコミュニティ醸成や地域活性化のツールとしても活用が図られている。 ・年間利用者数:8,973人(目標値8,000人) ・乗継利用の割合:66.7%(目標値50%)	・利用者が目標を達成し、高齢者を中心に利用の定着が図られている。今後も引き続き、自主返納者支援制度の周知をはじめとした利用促進を実施し、新規利用者の獲得を図る。
京福バス株式会社・岡保地域コミュニティバス南周り	14人乗り小型車両による運行で、車両減価償却費等国庫補助金の交付を受けている。	また、地域内の運転免許自主返納者に対して1年間有効の無料バスを発行するなど利用促進に努めた。	A		
光タクシー有限公司・殿下かじかポッピー地区外ルート	市南西部の殿下地域(中山間地域)の谷筋に散在する集落から、地区の中心部を經由して隣接地域の大規模商業施設に至る路線(区域運行)	定期的に交通新聞を発行し、利用状況を地域内に報告することで、地域住民のマイバス意識の醸成を図った。	A	・利用者1人あたり行政負担額:1,804円/人(目標値1,500円前後/人) ・乗継利用の割合:57.1%(目標値50%)	・利用者数は減少しているが、中山間地域に住む高齢者にとって必要不可欠な交通手段となっている。今後も地域の運行協議会、事業者と連携しながら利用方法や乗継情報の周知を行い、新規利用者を掘り起こし、乗合率の向上及び収支改善を図る。
福井鉄道株式会社・麻生津循環線青葉台ルート	市南西部の麻生津地区において、斜面住宅団地である青葉台や江尻ヶ丘、スーパーマーケットや鉄道駅等を經由する循環路線(路線定期運行)	定期的な交通新聞を発行し、利用状況を地域内に報告することで、地域住民のマイバス意識の醸成を図った。	A	1人あたり行政負担額は目標値には達しなかった。地域住民の日常生活に欠かせない移動手段として定着してきたものの、高齢化の進行により利用者が減少したことが主な原因と考えられる。	
福井鉄道株式会社・麻生津循環線江尻ヶ丘ルート	市南西部の麻生津地区において、斜面住宅団地である青葉台や江尻ヶ丘、スーパーマーケットや鉄道駅等を經由する循環路線(路線定期運行)	また、沿線自治会の各世帯に対し時刻表を配布することで路線の周知を図った。	A	江尻ヶ丘団地等、従来バス交通サービスが希薄であった交通空白・不便地域の解消が図られた。 ・年間利用者数:5,766人(目標値5,000人) ・乗継切符販売数:43.2枚/月(目標値20枚/月)	・沿線世帯や学校など、路線と乗継切符の周知を定期的に行い、周知徹底を図る。 ・地元が運営主体である地域コミュニティバス(酒生、岡保、殿下)と比べ、交通事業者が運営主体である当該路線は、バス利用について地元で考えてもらう機会が少ない。今後は、地元とバス利用について協議をする場を設け、バス利用の意識付けを行っていく。
福井鉄道株式会社・清明循環線大島下荒井ルート					
福井鉄道株式会社・清明循環線江端ルート	市南西部の清明地区において、公共交通サービス圏域外の住宅団地や既存集落と、地域内の大規模商業施設を結ぶ循環路線(路線定期運行)	鉄道との往復乗継割引切符や路線図時刻表などの情報を、各世帯へのチラシ等の配布によって周知広報を行った。	A	杉谷町や大島町等の公共交通空白・不便地域の解消が図られた。 ・利用者数:12,840人(目標値12,000人) ・乗継切符販売数:5.5枚/月(目標値10枚/月)	・沿線世帯に対し路線と乗継切符の周知を定期的に行い、周知徹底を図る。 ・地元が運営主体である地域コミュニティバス(酒生、岡保、殿下)と比べ、交通事業者が運営主体である当該路線は、バス利用について地元で考えてもらう機会が少ない。今後も継続して、地元とバス利用について協議をする場を設け、バス利用の意識付けを行っていく。
福井鉄道株式会社・清明循環線清明南ルート		また、地元自治会とバス利用について協議し、公共交通の維持について意識付けを行った。	A	乗継切符販売数は目標値に達しなかった。利用者数は増加したものの、主な利用が地域内移動に留まり、乗継利用の増加に結び付かなかった。	
福井鉄道株式会社・清明循環線清明南ルート公民館2度回り					

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

協議会名:	福井市地域生活交通活性化会議
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	既存ストックを活用しながら、公共交通のサービス向上と利用促進に取り組み、中心部のにぎわいと郊外部のやすらぎを結ぶ、誰もが安心して快適に移動できる全域交通ネットワークの構築を図る。地域にふさわしい交通サービスの確保と利便性向上を進め、過度にクルマに依存した交通環境からの脱却と、環境負荷の小さい公共交通への転換を目指す。